

# 留学体験レポート

国際学部 2年 飯原 元

## 1. はじめに

まず何故私が留学をしようと考えたかという、まだ私が 10 歳の時小学校の図書館である本を読んだことが長い間私の中にあっただけです。その本は海外の様々な簡単な挨拶や食文化を記されている本でした。その時から漠然と日本以外の国ってどんな所なのだろうかと思い始めました。そして様々な所で学ぶにつれ他の文化にも触れてみたいと思うようになり、今回留学に行くことで触れることができると思い希望しました。

## 2. アメリカ初日

不安と期待が半分半分ってよく言いますが 100%不安しかありませんでした。なぜなら親元を離れて生活した経験もなければ、約 4 ヶ月ですが初めての経験で不安ばかりでした。そして寮に着くと他のメンバーの部屋にはまだルームメイトは着いていないのにすでに私の部屋には着いていてどうすればいいか不安が爆発しそうになりました。

## 3. 大学での暮らし

大学の暮らしは始め不便で、携帯を外で使う事はできないし近くのスーパーに行くためのバスはなかなか来ませんでした。しかし、時間が経つにつれてルームメイトや他の友達とも冗談を言い合ったりできるようになり退屈な時間がなくなっていきました。

## 4. ESL クラス

クラスでは基本的には NUIS が占めていますが、私が行った時の教室には韓国人がいました。始めは正直に言って話す事はありませんでした。そのあと席が隣になって私の間違った文法を直して説明してくれたり韓国のオススメの食や言葉を教えてくれたりもしました。授業は面白い時もあり厳しい時もあり学ぶ環境としてはいい緊張感がある所です。

クラスメイトのキムで、親切で面白い人物です。



## 5. FIS ファミリーとも交流

FIS ファミリーとは自宅パーティーに誘ってもらったり拳銃ショーにつれて行ってもらったり充実した時間を過ごさせてもらいました。FIS ファミリーの二人はバイクをこよなく愛していてサンクスギビングで行ったバイク屋でいきなりバイクを買って驚かされました。そしてもちろんバイクにも乗らせてもらい、ツーリング仲間の人達とピザを食べに行ったりもしました。別れ際にプはレゼントをくれたりと優しく素晴らしい人達でした。

## 6. 感想・感謝

今回の留学を通して得たものはとても大きく単に語学を学ぶだけではなく他国の文化、習慣を大いに知る事ができたと考えています。そしてここでの出会いを大切に、一生残るものになったと思います。この留学は不安 100%から始まりましたが終えて振り返ってみると不安の文字は消え去り、もう一度出来るなら初日に戻りたいと感じるようになっていました。

こうした経験が出来たのは両親を始め、大学のサポートや周りの支えがあったからこそだと思っています。感謝しても足りません。アメリカでは多くの人に助けてもらい何かの縁で出会ったと思うので、大切にこれからもしていきたいと思っています。